



令和6年度 家庭教育充実促進事業

8月9日(金) 開催

子どもと保護者で一緒に学ぶ

読書感想文の書き方

子どもと保護者で一緒にプログラム

《第1部：いっしょに読書》60分



保護者と子どもで読みたい本を選びました。家から持参した本を読むことも可能でしたが、ほとんどの方が図書館が厳選した本を選び、手に取った本の簡単な内容を図書館司書に相談したり聞いたりしながら保護者と子どもで読書を楽しみました。

1時間が過ぎたところで、子どもプログラムと保護者プログラムに分かれるため、子どもたち、保護者それぞれ分かれて各々教室に移動しました。





子どもプログラム

《第2部：読書感想文を書こう》90分

講師：松田 美紀さん（話す作文教室 はなさく代表・NPO法人マナビエル理事）

講師補佐：平光 幸代さん（NPO法人マナビエル）

講師から、オリジナルワークシートを使いながら「誰かに自分の思っていることを伝えていくにはどうしたらよいのか」を学び、それを発展させて感想文にしていく方法を教えてもらいました。



どこの場面でも感じたか、どう伝えたいのか、質問を細かく重ねていくうちに、子どもたちは自分の気持ちに気づき表現できるようになりました。感想文を書くということは何か正解を出すということではなく、自分らしさを知り経験や価値観をもとに自分の等身大の考えや気持ちを表現することだということを実際に体験してもらいました。



時間が経つごとに、最初は緊張気味だった子どもたちも「自分が思ったことは何を書いてもOK!」という講師の言葉に励まされながら、楽しんで読書感想文を書いていきました。





保護者プログラム

《第2部：子どもの気持ちをひきだすには？》90分

講師：志田 千帆さん（NPO法人マナビエル代表理事）

講師補佐：福地 朋子さん（wmoon 合同会社代表・NPO法人マナビエル理事）

読書感想文の書き方を通じて、子どもに言葉で自分を伝える力をつけていくために、保護者としてどうすればいいか？保護者同士でグループを作り、意見を出し合いながら進めていきました。



保護者の中でも読書感想文が苦手だったという声が多かったのですが、読書感想文は「言葉で自分を伝える場」のひとつであるとの説明の後、言葉で自分を伝えるスキルは、受験や面接でも自己PRや強みを問われる場が増えていくので今後とても必要とされることを学び、また小学生の時期に苦手意識をなくすためのコツを伝授していただきました。

絵を見るときは、細かいところではなく全体を見ての感想を子どもたちに伝えますが、読書感想文（作文）は細かいところまで見て指摘してしまう傾向があります。作文自体に正解はなく子どもが書いたものが全てが答えなので、保護者（おとな）は「これおかしくない？」「もっと字をきれいに書いた方が」など否定的なことは言わず、気持ちや考えが書けていたら褒めたり「これは誰のことかな？」「どんな気持ちになった？」とまずは子どもの話を聞いてアート作品を見るように少し距離をおいて、文章の上手さよりも表現の個性を見て感想を伝えたり、そうした対話を重ねていくうちに子どもとのコミュニケーションから「言葉で自分を伝える力」がついてくるとお話しされました。





講座の終盤は、オリジナルワークシートを使って読書感想文を書き終えた子どもと、別室でプログラムを終えた保護者と合流し「親子で発表会」。最初のころと違って、保護者と子どもたちで和やかな雰囲気に包まれました。

講座を通じて子どもたちは言葉で表現することに頑張っており、保護者も単に感想文の書き方にとどまらず子どもとの向き合い方について学びました。



子どものアンケートより

- ★いつもより、内容がじょうずに書けてよかったです。
- ★楽しかったし、分かりやすかった。
- ★読書感想文の書き方を教えてくれてありがとうございます。
- ★よく分からなかったところもよく分かるようになった、とても分かりやすかった。
- ★楽しい！！
- ★意外と書けた。
- ★読者感想文、むずいと思っていたけど、今回ので書き方が分かった。



保護者のアンケートより

- 子どもへの言葉かけの方法や、読者感想文の書き方のポイントを学べて勉強になった。
- 子どもの気持ちになってみることを実践したが、子どもの気持ちを否定しないこともしようと思った。
- ほめる大切さと文章の良さよりも自分を出せることのほうが大切と知った。
- 子どもとの関わり方、声のかけ方など、親にとっても勉強になった。
- 子どもの表現の豊かさを引き出したいと思った。
- つつい否定してしまうなど、みんな同じなんだと安心し今後は改善していこうと思った。
- ずっと読書感想文に対して悩んでいたのが少し楽になった。
- 子育てのヒントになる内容で、実践していこうと思った。
- また読書感想文の講座を受けたい。

